

未来を拓くために
今を捉える

学校現場へのアンケート結果から見る、高3支援の今後の課題

希望進路の実現に向かって力強く進めるよう、生徒に寄り添い、対話を重ねる

VIEW21編集部は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休業における各校の対応状況と、学校再開後の教育活動の見通しを調査するため、4月下旬と5月下旬の2回にわたり、全国の高校教師を対象としたオンラインアンケートを実施した。そのアンケート結果を踏まえ、臨時休業中も高3生への支援・指導を精力的に行った2校の理事長・校長が、全国の学校・教育委員会のアドバイザーを務める教育研究家の進行の下、学校再開後の高3生支援について語り合った。

高3生の学びを止めないために、課題提供やオンライン授業を実施

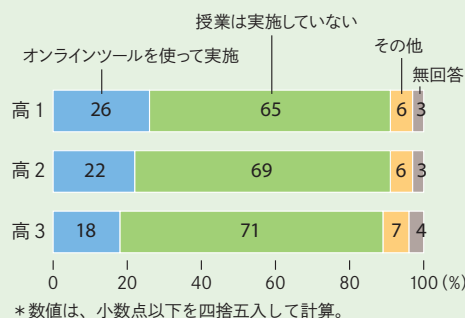
妹尾 まず、臨時休業中の学習指導についてお伺いします。お二人の高校では、どのような対応をされていましたか。

平岩 本校では、4月6日から生徒所有のデバイスを使ったオンライン授業を行いました。日頃から生徒との対話を重視した教育活動を進めている本校では、臨時休業に際しても、まずは生徒に学習についての考えを聞きました。高3生の声で圧倒的に多かったのが、「普通に授業を進めてほしい」という声です。オンライン会議ツールを利用して、教室での

授業と同じように黒板を使いながら教師が説明したり、生徒からの質問に答えたり、あるいは、生徒を複数のグループに分けて学び合いを行ったりしています。放課後には、オンライン自習室を設け、教師に質問したり、生徒同士で教え合ったりすることができるようになりました。

荒木 高3生は、大学入試や就職活動を控えているため、授業がないことに大きな不安を抱いていました。本校でも、課題の送付やオンライン授業は、高3生から行いました。オンライン授業はいち早く実施したいと考え、福岡県教育委員会に相談したところ、県としてオンライン会議ツールのアカウントの取得を進めて

図1 臨時休業中の授業



くれました。おかげで学校現場は安心して準備を進めることができ、4月20日にはオンライン授業をスタートし、その後、教師と生徒との双方

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校指導への影響に関するアンケート第1回・第2回」概要 (図1～7出典)

【調査方法】 インターネット調査 (ハイスクールオンラインが発信するメルマガにウェブアンケートのURLを記載。また、同サイトのトップページにもウェブアンケートのバナーを表示) **【調査期間】** 第1回: 2020年4月20日～5月1日 第2回: 2020年5月18日～27日 **【調査対象・回答数】** 高校教師・第1回: 543人、第2回: 247人 **【調査項目】** 臨時休業中に生徒が取り組む課題、臨時休業時の授業、臨時休業時の学力把握、休業明けの定期考査の検討状況など

◎アンケート結果の詳しい内容は、下記のウェブサイトからご覧ください。

【ベネッセ教育総合研究所】

<https://berd.benesse.jp/special/VIEW21express/>

【ハイスクールオンライン】

https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/index.html

福岡県立須恵高校 校長
荒木礼子 あらぎ・れいこ
 教職歴31年。同校に赴任して1年目。福岡県立城南高校教諭、同糸島高校教頭、同明善高校副校長などを経て、20年度から現職。



東京都・学校法人新渡戸文化学園 理事長
平岩国泰 ひらいわ・くにやす
 会社員時代、長女の誕生をきっかけに放課後NPOアフタースクールの活動を開始。2011年から教育の活動に専念。17年、学校法人新渡戸文化学園理事、19年、同理事長に就任。文部科学省中央教育審議会専門委員。東京都渋谷区教育委員。



福岡県立須恵高校の取り組みは、P.16〜19で紹介

東京都・私立新渡戸文化高校の取り組みは、P.12〜15で紹介

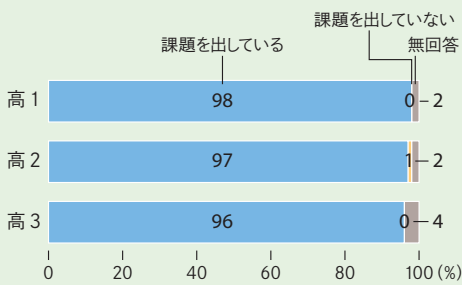
教育研究者
 行政・学校向けアドバイザー
妹尾昌俊 せのお・まさとし
 野村総合研究所を経て、2016年に独立。全国各地で学校・教育委員会向けの研修・講演などを手がける。学校業務改善アドバイザー（文部科学省、埼玉県、横浜市等より委嘱）、中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員等を歴任。近著に、『教師崩壊 先生の数が足りない、質も危ない』（PHP研究所）。



ファシリテーター

向型の授業としました。復習に活用できるよう、授業は録画して配信もし、その際、学習内容の確認テストや評価レポートを実施しました。
妹尾 両校とも、生徒と教師の対話を大切にしていたんですね。
今後の授業計画のためにも、学力の現状把握が重要
妹尾 アンケート結果を見ると、臨時休業中、オンライン授業の実施率は約2割で（図1）、多くの学校が3〜4月に授業で扱う予定だった事

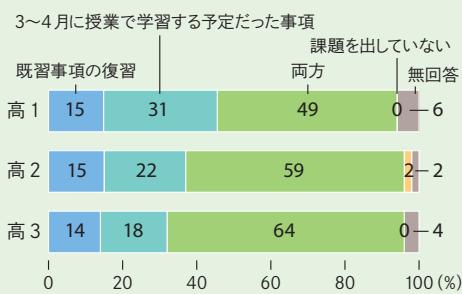
図2 臨時休業中に生徒が取り組む課題の有無



*数値は、小数点以下を四捨五入して計算。

項は、課題を通じて学習させていた（図2・3）。その一方で、臨時休業明けに最も対応が必要と思われる課題として、約6割が「学習進度・授業進度のリカバリー」を挙げている（P.6図4）、先生方が生徒の学習状況に不安を抱いていることが分かりました。
荒木 体調やデータ通信量の上限などの理由で、生徒全員が毎回オンライン授業に参加できたわけではなく、課題の提出率も100%ではありません。課題の提出率も100%ではありませんから、臨時休業中に学校が提供した学習に、生徒全員がすべて取り組んでいるとみなして、学校再開後の授

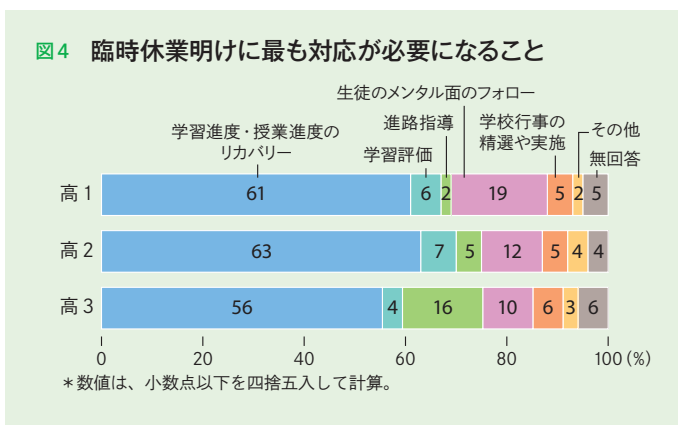
図3 臨時休業中に生徒が取り組む課題の内容



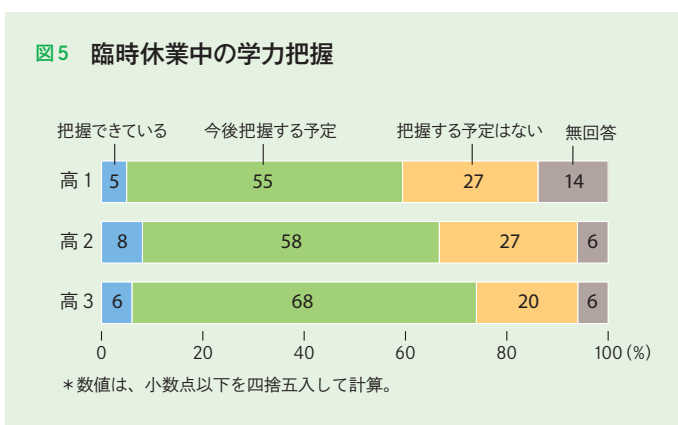
*数値は、小数点以下を四捨五入して計算。

業を行うことは難しいでしょう。
平岩 臨時休業当初には、授業進度に関する不安があったかもしれませんが、4月の早い段階でオンライン授業を始めたことで、そうした声は小さくなっていました。ただ、オンライン授業は1日3〜4コマ程度であり、1日6〜7コマある平時と比較すると、学習のペースは生徒によって差が出る可能性があります。
妹尾 生徒の学習状況が見えにくいといった状況を踏まえると、特に高3生については、今後の授業計画の見通しを立てるためにも、現状の学力把握が重要だと言えそうです。アンケート結果を見ても、臨時休業中

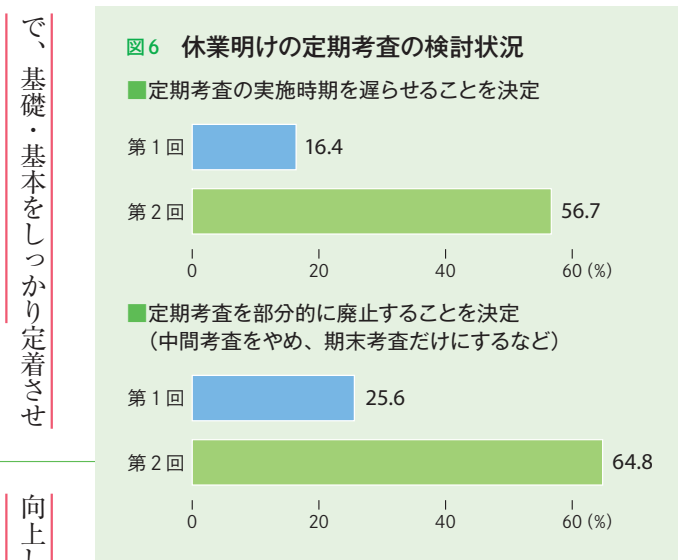
の学力把握について、高3学年では7割近くが「今後把握する予定」と回答し、その必要性を認識しています(図5)。高3生の1学期の評定は、大学入試で活用されるため、定期考査の時期を遅らせて実施することの回答が6割弱、部分的に廃止することを決めたこととの回答は6割強に上りました(図6)。



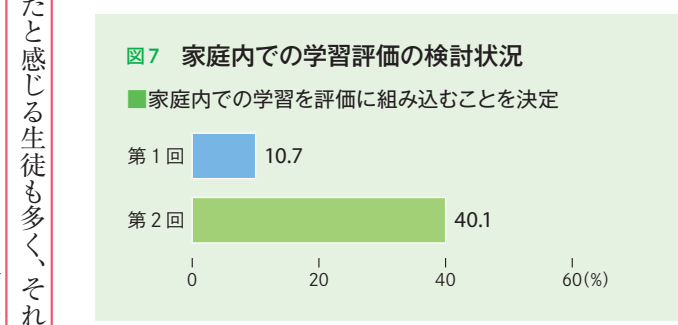
得を最大限得たいと考えています。**妹尾** 評価には、臨時休業中の家庭学習の状況も組み込まれるのでしょうか。アンケートでは、家庭学習を評価に組み込むと答えたのは、約4割にとどまりました(図7)。



平岩 本校では、1日の学習リズムができると考え、課題提出を行っています。未提出が続く生徒には個別に声をかけ、生徒が自身の状況をメタ認知できるよう、支援しています。**妹尾** 課題の取り組み状況を単に評価するだけでなく、生徒になぜ、この課題を出すのか、課題を通じて何を身につけてほしいのかを伝えることが大事なのですね。



平岩 本校では、非認知能力の評価について検討中です。平時とは異なる経験をしたことで、非認知能力が向上したと感じる生徒も多く、それをきちんと評価することで、今後、認知能力の伸びが期待できると考えています。評価方法は、前の自分と今の自分を比べてメタ認知することに意味があると考え、教師による評価だけでなく、生徒同士の相互評価と、アセスメントやポートフォリオを活用した評価などを検討しています。



希望進路を諦めさせないために、一人ひとりと向き合う

います(図4)。両校ではどのような対応をされていますか。

荒木 本校では、生徒が今回の想定外の事態で不安になり、自信を失って希望進路を諦めないよう、オンラインでのホームルームや面談を丁寧に行っていました。特に面談では、

進学でも就職でも第1志望への思いを自分の言葉で表現させ、志望実現のために何が必要かを自分で考えられるよう支援しました。教師も弱気になりがちでしたが、画面越しでも生徒の笑顔に元気をもらいました。臨時休業中、断続的ではありませんが、

生徒と対話をしてきたことは、生徒と教師との一体感を生み、それが学校再開後の推進力になっています。

平岩 多くの高3生が、今回の臨時休業で大学入試に不利になったと否定的な思いを抱いているかもしれせん。しかし、全国の高3生が皆、

同じ状況にあり、大事な今は、そして、これからです。生徒が目標に向かって自分は何をすべきかを考えて、前に進めるよう、伴走して励ます役割が、教師には求められるのではないのでしょうか。

妹尾 部活動などの全国大会の中止が余儀なくされ、学校行事も実施し

づらい中、高3生は大学入試や就職活動に向けて、どのように気持ちを切り換えればよいのかも課題です。

荒木 学校は、他者とともに学ぶ場であり、学校行事や部活動などは非認知能力を磨く重要な機会です。それを失わず、高3生が次のステージに進むための支援が必要と考え、本校では、中止となった文化祭の代わりに、文化祭が3年間の成果を発表するウェブ文化祭を企画中です。運動部でも、全国大会や県大会が中止となってしまうため、他校との交流試合を考えています。

平岩 気持ちを切り換えるためにも、高3生がマインドセットをできる時間を設けるのはどうでしょうか。学校再開後、すぐに学習を進めることはもちろん重要ですが、学校は何のためにあるのか、自分にとってどんな場所なのかを、生徒と教師が語り合い、学校や授業の意義を再認識することができれば、その後の学習にもよい影響があると考えます。

妹尾 今回の事態は、たくさんの変残念なことをもたらしましたが、

社会の様々な事象のつながりが見え、資質・能力を育む学びの機会も創出しました。新型コロナウイルス

の感染拡大の防止策においては統計学の重要性を目的の当たりにし、歴史からは感染症対策の様々な教訓を得ました。自粛期間中は、自分が社会の一員としてどう行動すべきか、社会とどうかわるべきかを、生徒も深く考えたことでしょう。そうして

広がった関心や深まった問題意識を教科横断的な視点でさらに広めたり、深められたりするような働きかけが、高3生が進路を考える上でも大切になると思います。

**焦らず、ぶれずに
生徒に寄り添う**

妹尾 6月から多くの学校で登校が再開しました。今後の教育活動についてどのようにお考えでしょうか。

平岩 今後予測されている第2波、第3波への備えとして、オンライン学習の環境を整え、自校の状況に応じたオンラインツールの活用法の検討が必要だと思えます。本校では、オンライン授業と対面授業のそれぞれ

のよさを整理し、授業再開後もオンライン授業を継続する予定です。また、高3生は、先が見えずにプレッシャーを感じているかもしれませ

ん。だからこそ、焦らずに、今できることに集中することが大切です。

自分だけが不安ではないと感じられるよう、教師や学校が生徒に寄り添う存在でありたいと思います。
荒木 その通りだと思います。どんな事態になっても、私たちは生徒一人ひとりと向き合い、支援する、それにぶれはありません。様々な制約があっても、高3生の進路実現はもちろん、生徒のために何ができるのかを教師一人ひとりが考え、提案し、話し合い、「チーム学校」としてよりよい支援をしていきます。そして、学校がどんな支援を考えているのかを生徒や保護者に伝え、安心してもらうことも重要です。校長通信を配信し、学校の様子を伝えることに努めています。誰もが不安であるからこそ、教師がどしどしと構えて、ぶれずに生徒と向き合えるよう、校長としての支援をしていきます。

高3支援の課題整理

- ✓ 学力の現状把握
- ✓ 学習評価のあり方の検討
- ✓ 進路実現に向けたマインドセット
- ✓ 学校としての支援方針の策定と発信